

## 令和5年度ノリ養殖概況

池田博明\*・榎東裕子

**養殖環境** 漁期中の岡山市における月別降水量の推移を図1に示した。降水量は、10月、11月及び1月は高気圧に覆われて晴れの日が多く、平年より少なかった。一方、2月から3月にかけての降水量は、低気圧と前線の影響を受けて平年より多かった。

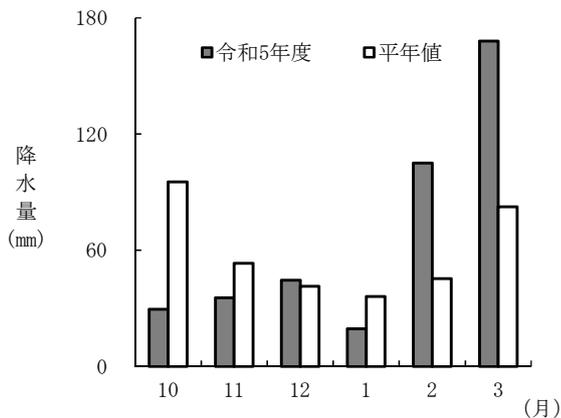


図1 令和5年度漁期月別降水量の推移 (岡山地方气象台)

牛窓沖水深2m層における日平均水温の推移を図2に示した。水温は、10月26日に育苗開始の目安となる23℃を下回り、11月14日に本張り開始の目安となる20℃を下回った。10月から11月までの水温は平年を上回る日が多く、特に10月上旬と11月上旬には平年値を1.5℃以上上回る日も見られた。11月下旬から12月上旬の寒波により、水温が大きく低下し平年値に近づいたものの、その後1月から3月にかけては常に平年値を上回った。

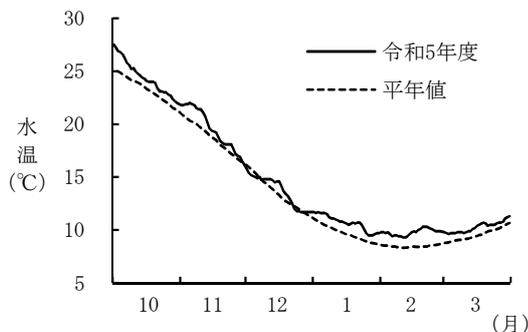


図2 令和5年度漁期牛窓沖水温の推移

漁期中のノリ養殖漁場における溶存態無機窒素(DIN)濃度の推移を図3に示した。DIN濃度は、10月上旬から11月下旬にかけて増加したが、その後、短期間のうちに低下し、12月中旬には3μM以下となった。近年、秋季に発生していた大型珪藻 *Coscinodiscus* 属の大規模な増殖は見られなかった。その後、2月中旬まではDIN濃度が1~2μM程度で推移したものの、2月下旬以降は定期的な降雨により、3μMを超える状態が続いた。

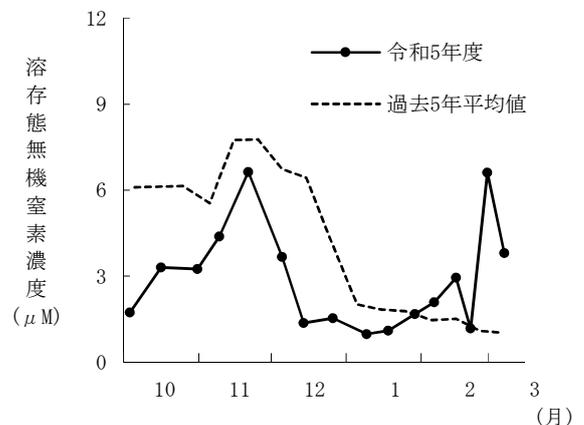


図3 令和5年度漁期溶存態無機窒素濃度の推移

**養殖経過** 漁期中のノリ養殖状況について、漁業者に聞き取り調査を行った。

育苗は10月23日から開始され、全体的に順調に経過したものの、ごく一部の網では芽傷みと芽の脱落が見られた。

本張りは11月13日から開始された。県内全域でクロダイの食害が原因と思われる食痕と葉体の短縮化が確認された他、12月中旬以降のDIN濃度低下による色調低下と生長鈍化がみられた。

生産は12月上旬から開始された。一部の生産者では、食害等の影響により葉体の伸長待ちを余儀なくされ、生産開始が遅れた。また、12月上旬頃に初摘みの葉体を加工した際、穴あきや破れが多発したため生産枚数が伸び悩んだ。12月から1月中旬にかけて生産枚数は少ない状態で推移したが、水温低下により食害が収まってきた影響もあり、1月下旬頃から生産枚数が増え始めた。その後、色調が低下しながらも生産を継続で

\* 岡山県農林水産総合センター普及連携部普及推進課

きた地区では、2月下旬からの定期的な降雨により色調が回復し、他産地の不漁による単価高騰と相まって、漁期終了となる3月下旬まで生産が継続された。しかし、早期に生産継続が難しくなるほど色調が低下した地区では網揚げが進み、2月中旬頃に生産終了となった。

漁期を通じて大規模な病害の発生やまん延はなかったものの、漁期の終盤において壺状菌とアカグサレ病

の罹病が一部で確認された。

**生産結果** 食害や生育不良の影響により年内の生産量は少なかったものの、生産が3月下旬まで続いた結果、生産枚数は前年を上回る約1.5億枚(前年比111%)となった。他産地の不漁により国内の生産枚数が減少したため単価が高騰し、平均単価は16.57円(前年差+3.30円)と過去10年で最高となり、生産金額は25.5億円(前年比139%)となった。

---

\* 岡山県農林水産総合センター普及連携部普及推進課